

薩摩硫黄島

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

噴煙活動はやや活発で、火山性地震はやや多い状態が継続しています。硫黄岳山頂火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されますので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12 月の活動概況

・噴煙活動(図 2)

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや活発な状態で経過しました。

噴煙は白色で、高さは概ね 400m で推移しました。

・地震、微動活動(図 2、図 4)

地震活動はやや活発な状態で経過しました。

火山性地震の月回数は 122 回(11 月: 177 回)とやや多い状態が続いています。

継続時間の短い火山性微動の月回数は 4 回(11 月: 0 回)でした。

・上空からの観測(図 3)

6 日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て上空からの観測を実施しました。火口周辺及び噴気地帯周辺の状況に大きな変化はありませんでした。

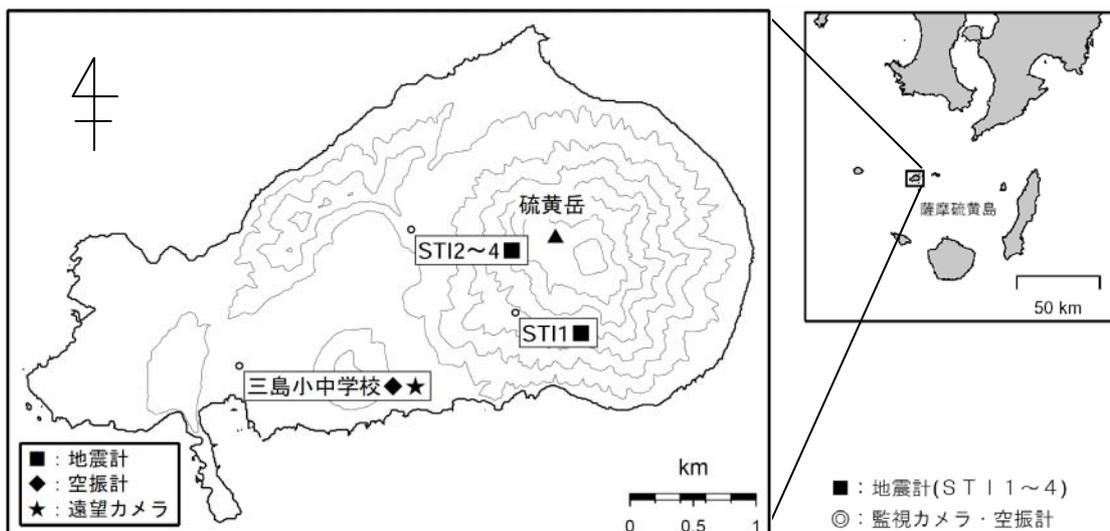


図 1 薩摩硫黄島 観測点配置図

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年 1 月分)は平成 20 年 2 月 7 日に公表予定です。

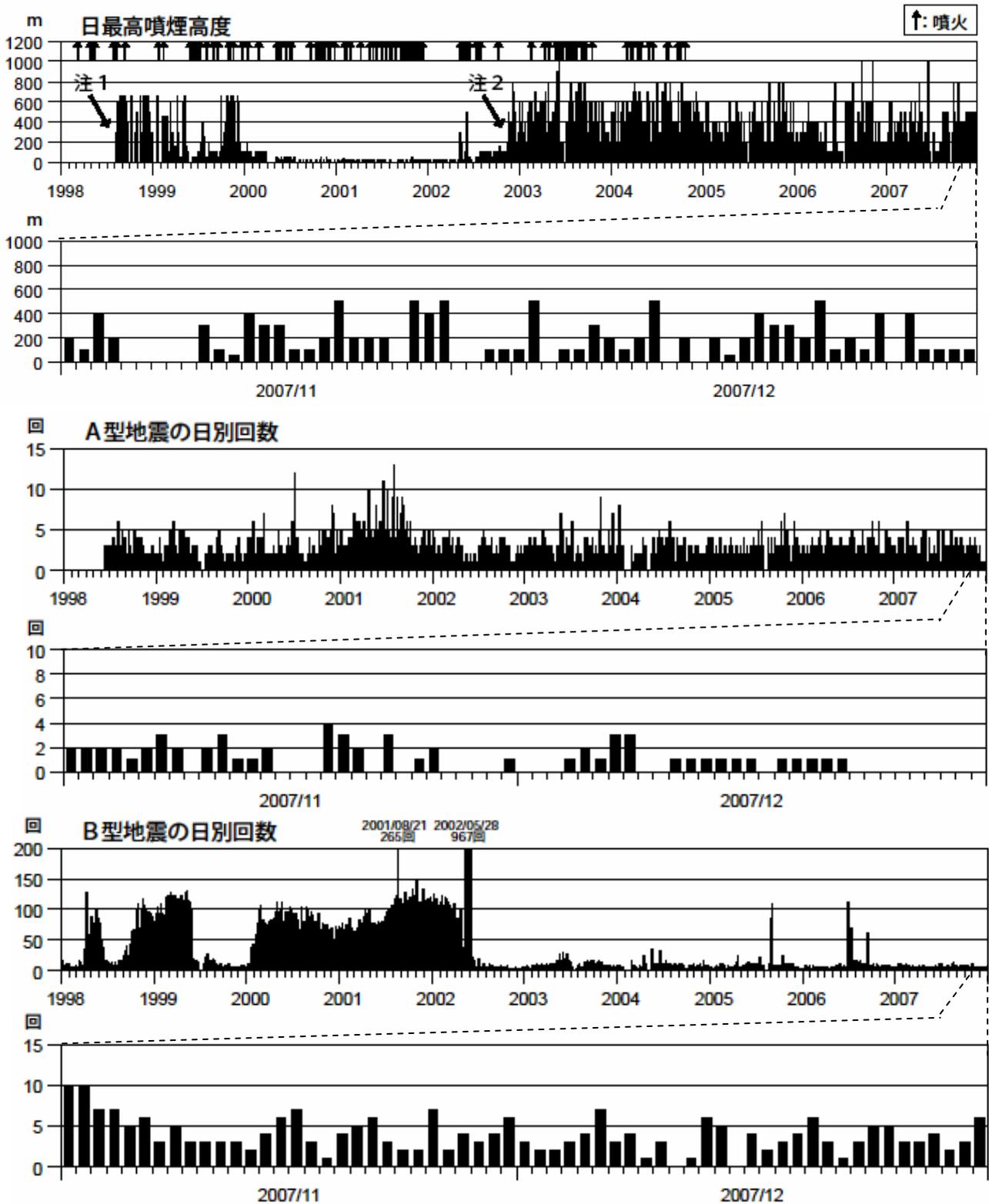


図2 薩摩硫黄島 火山活動経過図(1998年1月1日～2007年12月31日)

- ・噴煙は白色で、高さは概ね400mで推移しました。
- ・A型地震は21回(11月：41回)で、大きな変化はありませんでした。
- ・B型地震は101回(11月：136回)で、大きな変化はありませんでした。

注1 1998年8月1日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

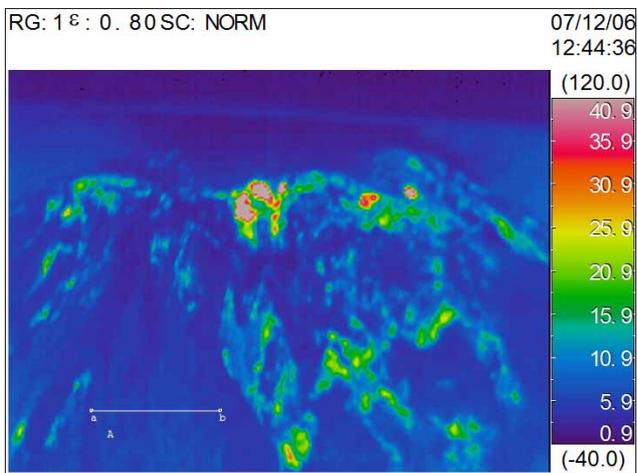
注2 2002年11月16日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。



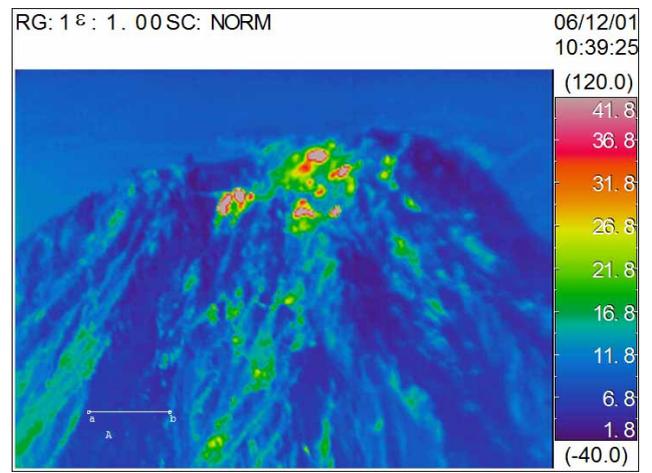
可視画像 2007年12月6日(西側から撮影)



可視画像 2006年12月1日(北西側から撮影)



熱映像 2007年12月6日(西側から撮影)



熱映像 2006年12月1日(北西側から撮影)

図3 薩摩硫黄島 上空からの観測結果 12月6日撮影

- ・ 赤外熱映像装置¹⁾による表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

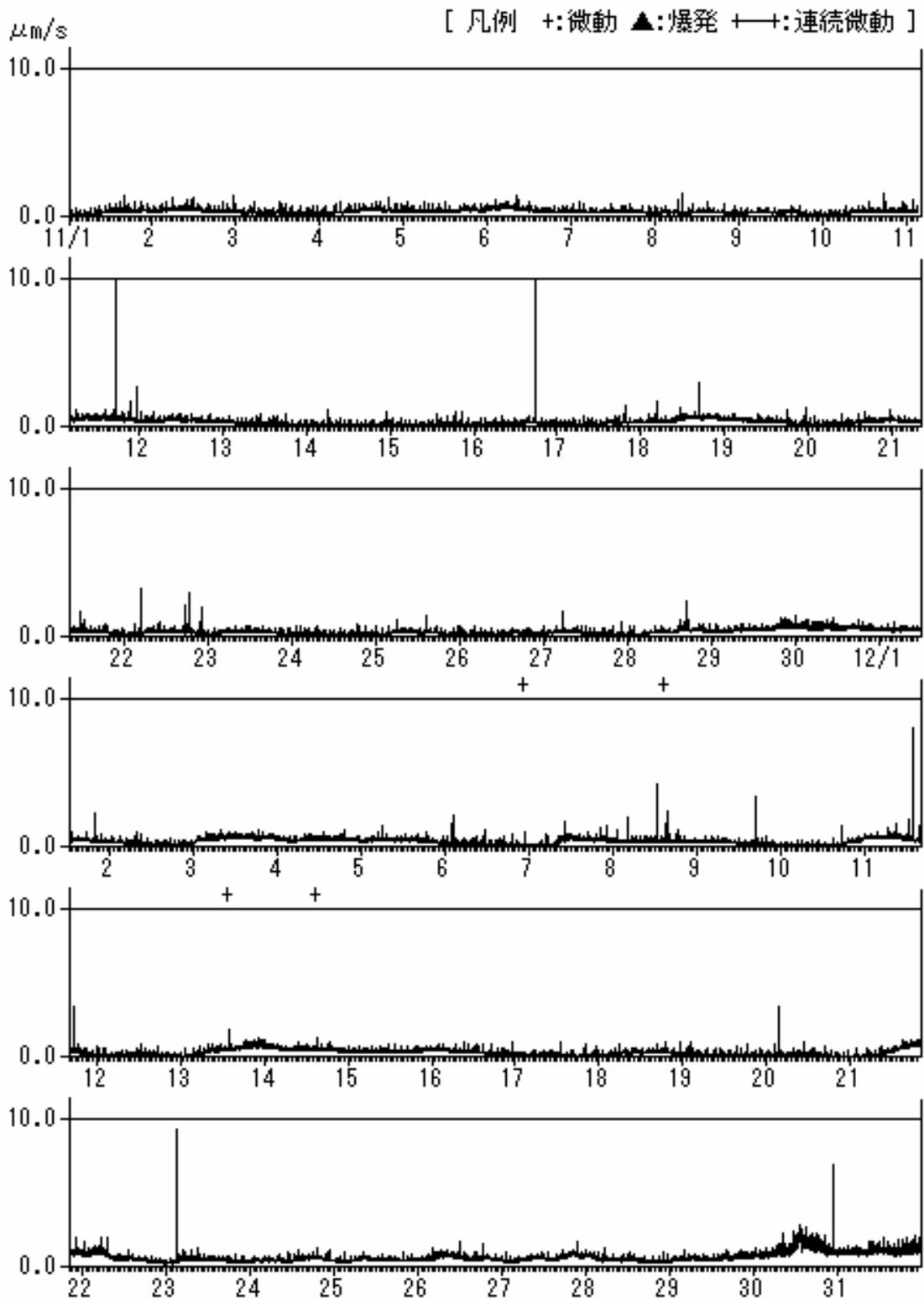


図4 薩摩硫黄島 1分間平均振幅の時間変化(ST11上下成分)(2007年11月1日~12月31日)
・継続時間の短い火山性微動を4回観測しました。